

令和5年 上富良野町議会第4回定例会  
一般質問 質問事項一覧

届出順	氏名	質問事項
1	1番 佐藤 大輔	1 予約型乗合タクシー利用料金の一律化について 2 高校生までの医療費無償化について 3 ふるさと応援モニター事業について
2	12番 小林 啓太	1 斉藤町政のここまでの自己評価と来年度の取り組みについて
3	6番 林 敬永	1 特別養護老人ホーム(ラベンダーハイツ)の運営について 2 防災行政無線の運用について 3 ごみ処理の対応について 4 主要事業施策の政策決定のあり方について
4	10番 井村 悦丈	1 草分防災センターについて 2 学校給食費無償化について
5	9番 島田 政志	1 デジタル化について 2 社会教育総合センターの体育施設利用の予約方法について
6	5番 金子 益三	1 不足する保育士等の確保に対する対応について 2 町立病院へ小児科を設置について 3 積極的な情報公開への対応について
7	3番 湯川 千悦子	1 道の駅の設置について 2 不登校の子供の対応について
8	4番 米澤 義英	1 土地利用規制法について 2 介護保険について 3 農業振興について 4 子育て支援について 5 教育行政について
9	2番 荒生 博一	1 学校給食について 2 町ホームページの統計について
10	8番 中瀬 実	1 物価高に対する生活弱者への支援対策は 2 第9次農業振興計画の重点施策について

## 一般質問通告書(令和5年12月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p><b>1</b> <b>1番 佐藤 大輔</b> 1 予約型乗合タクシー利用料金の一律化について (町 長)</p>	<p>予約型乗合タクシー利用料金については、平成29年度、令和3年度に実施されたアンケートにおいて一律化を望む声が寄せられているが、その多くが郡部在住の町民からであると推察する。</p> <p>町長は以前、同様の質問に対して「地域交通の全体的な在り方を研究する」とし、取り立てて言及してはいないが、この事業を通じて「高齢者など交通弱者の移動手段を確保し、高齢化社会に対応したまちづくりの推進」を図るのであれば、たとえ人数としては少なくとも、郊外に住む交通弱者の料金に関するニーズに応えることが可能か否か、早期に明確にすべきと思うが見解を伺う。</p>
<p>2 高校生までの医療費無償化について (町 長)</p>	<p>我が町における中学生までの医療費無償化は、令和4年第1回定例会で条例改正案が上程され、所管委員会付託を経て可決され実現したが、対象を高校生にまで拡大することについては段階的に判断するとのことで見送られ、議会も同意している。</p> <p>しかし、現在、高校生までの医療費無償化は、上川管内でも多くの自治体で実施されており、美瑛町は令和2年4月から、富良野市は昨年12月から、そして中富良野町が本年8月から所得制限を設けず制度の運用を開始している。</p> <p>町長は以前「医療費実績の推移及び財政状況を見極め、効果が一定程度検証された後に検討する」と述べているが、移住対策という観点からも、早期に検討段階に入るべきと思うが見解を伺う。</p>
<p>3 ふるさと応援モニター事業について (町 長)</p>	<p>ふるさと応援モニター（以下ふるさと納税）事業について以下4点につき町長に伺う。</p> <p>(1) 10月から返礼品に関連するルールに一部変更があり、全国の自治体で様々な影響が生じているようだが、我が町はどうか。</p> <p>(2) ふるさと納税事業を主な業務とする地域おこし協力隊が10月1日付で採用された。この体制強化によって今後どのようなことに注力していくのかを伺う。</p> <p>(3) 今秋、我が町の公式ユーチューブチャンネル上において、町長自ら寄付金の使い道の説明と感謝の意を述べた動画が投稿されたが、動画作成・公開までの経緯を伺う。</p> <p>また、寄付を受ける側の責任として、今後も現状に甘んじることなく、その使い道と成果をよりわかりやすく寄付者に示していくべきと思うが、現時点で、その手法として決定、及び検討しているものがあれば伺う。</p> <p>(4) 現在、我が町に寄せられた寄付金の多くが基金に積み立てられたままとっている。近年、寄付金の使い道に関心を寄せる動きは全国的に益々広がりを見せ、総務省も「ふるさと納税で得られた資金が、それぞれの地域で更に有効に活用されるためには、使い道を地域の実情において工夫する視点が重要」としている。町長が描く町の将来像を具現化するためにも、寄付者の思いが詰まった寄付金を大いに活用した政策の展開を期待しているが、使い道をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る「クラウドファンディング型」の採用と合わせて見解を伺う。</p>

## 2

### 12番 小林 啓太

#### 1 齊藤町政のここまでの自己評価と来年度の取り組みについて

(町 長)

齊藤町長が上富良野町の町長に就任してから間もなく3年が経とうとしている。そこで町長に対し、これまでの3年間の行政運営に関する自身の評価と、4年目を迎えるにあたり取り組んでいくことに関して、3年前に町長自身が掲げられていた「未来を創る7つの政策」に沿って伺う。

なお、今回参考にした資料は、さいとう繁後援会発行の政策リーフレット、選挙公報、また町長選挙前に行われた公開討論会である。そして最後に総括的な質問も加え、以下8点について町長に伺う。

#### (1) 『福祉と医療の連携』について

町長はこの政策に関して、ボランティア機能の充実とともに、医療と福祉が連携した町立病院の建て替え、また地域交通の確保、独居老人対策などの高齢者支援サービスの充実を訴えていた。

- ・ 具体的な事業や取り組みをもとに、この政策について現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか伺う。

#### (2) 『子育て支援の充実』について

町長は全ての人が自分らしく働き続けられることが大切であるという考えのもと、育児に関わる子育て支援体制の整備の推進を掲げている。

具体策としては「中学生までの医療費の無償化」「子どもセンター機能の集約」を掲げられていた。

- ・ 「子育て支援体制の整備」とは具体的にどのような事業や取り組みをもって推進してきたのかを踏まえ、現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

#### (3) 『産業の活性化』について

町長は農業を中心とした産業の発展を課題と考え、農業・商工業・観光業が連携して上富良野らしい産業の活性化のための企業支援や後継者育成の支援の推進を掲げている。具体策として「地域に根差した農業支援」「道の駅整備と地場製品の販売促進」に言及していた。

- ・ 「道の駅整備」構想の進捗と、「地域に根差した農業支援」と「地場製品の販売促進」の具体的な事業や取り組みを踏まえ、この政策について現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

#### (4) 『一生モノの教育振興』について

町長はこの政策に関して、「上富良野高校の維持存続」と「指導者などのマンパワーの充実」という具体策を掲げるとともに、国際交流の推進も掲げている。

- ・ 「指導者などのマンパワーの充実」に係る具体的な事業や取り組みを踏まえ、この政策について現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

(5) 『観光と地元暮らし』について

町長はこの政策に関して、自然資源を活かした滞在型観光や移住定住に繋がる取り組み、具体的には「ジオパークなど多様な観光の構築」と「観光資源の保存とPR」を掲げている。

- ・ この政策に関して、思い描いていた通りに自然資源を活かした取り組みが「観光」「移住」「定住」の促進につながっているのかを踏まえ、現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

(6) 『駐屯地の維持・拡大』について

町長はこの政策に関し、自衛隊との共存共栄を図り、駐屯地の維持拡充、退職者の雇用の場の確保、十勝岳噴火を念頭に置いた災害時の緊密な連携をはかり災害に強い町づくりの推進を掲げている。

- ・ この政策に関して、現在までの3年間の取り組みを町長はどのように自己評価しているか。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

(7) 『雇用の確保と充実』について

町長はこの政策に関して、定住を促進する上でも企業誘致と起業家支援の充実に取り組むこととし、具体策としては「誘致企業への支援制度」「資格所得制度などへのサポート」を掲げている。

- ・ この政策に関して、実際にどのようにして誘致した企業を支援してきたのか、またどのように起業家や資格取得を支援してきたのかを踏まえ、現在までの3年間の自己評価を伺う。
- ・ またそれを踏まえ来年度はどのようなことに取り組む考えか。

(8) 3年間の自身の達成度とこれからについて

この3年間は新型コロナウイルスの対応など、歴史的にもイレギュラーな対応も多く、もしかしたら町長がその職を志し、計画していたことが十分に取組みできなかったこともあるのではないかと察する。その一方、パンデミックによってあぶり出された新たな課題や、逆に急速に進めることができた事業もあったのではないかと考える。また昨今では急速な物価の上昇、自然災害の激甚化、国際平和に対する不安など、住民生活を取り巻く社会の変化も大きくなってきていると感じる。これらの事情も加味した中で、町長を志し7つの政策を掲げた際の期待値に対する達成度は何%か。また就任後の様々な変化を受けて、取り組んでいくべきと強く考える政策はどのようなことがあるか。

<p>3 6番 林 敬 永</p> <p>1 特別養護老人ホーム (ラベンダーハイツ) の 運営について (町 長)</p>	<p>昭和 59 年 4 月 1 日に開設された特別養護老人ホーム (ラベンダーハイツ) は、今年で開設 39 年を迎えます。鉄筋コンクリートの法定耐用年数は財務省例で 47 年と定められていますが、これは建物の「寿命」を示しているものではありませんので、建物が使用できなくなる訳ではありませんが、設備など毎年の修繕費の支出状況から、これから想定できない修繕箇所が発生すると思います。齊藤町長は、これまでの間、議会でのラベンダーハイツに関する将来像に対するの質疑において、自身の任期の間は前町長の方針を受け継いで公設公営でしっかりとサービスを提供していきたい。また、今年度の予算特別委員会においては、施設の老朽化もあるが将来どうあるべきか、ということを探求して現状を十分見極めながら、今後のラベンダーハイツの将来像、ビジョンを考えていきたいと答弁されています。そうしたことを踏まえて現在の町長のお考えをお聞かせください。</p> <p>(1) 今年度の予算を、修繕費を昨年の 2 倍にして突発的な故障に対応できるような予算組みにしたと予算特別委員会で説明されていますが、現在までの修繕費の執行状況において今後も修繕が予想される箇所があるのかお聞かせください。</p> <p>(2) ラベンダーハイツ事業特別会計について、介護報酬の改定から介護給付収入の減少や入所者の減少から一般会計からの繰入総額も年々増加し厳しい施設運営を強いられている現状について、町長は今後どのような施設運営を進めていかれるかお考えをお聞かせください。</p> <p>(3) 令和 4 年第 2 回定例会 (6 月開催) での一般質問において、ハイツの建て替えについては、天変地異の災害等がない限りは計画もしない、現状のままと発言されていました。そのお考えは、現在も変わっていないのかお聞かせください。</p>
<p>2 防災行政無線の運用について (町 長)</p>	<p>昭和 50 年代後半に整備された「防災行政無線」、町民に最も重要かつ必要な情報伝達手段の一つとして用いられ、なくてはならないものと考えます。現在、アナログ無線からデジタル行政無線に変わり個別受信機の受信状態もかなり良好になっていますが、現在の運用について町長のお考えをお聞きします。</p> <p>(1) 防災行政無線のデジタル化を理由に行政だよりとお悔やみ放送音声と内容を 4 月より変更すると広報紙 2 月号でお知らせされ現在に至っていますが、デジタル化されたことにより何が原因でお悔やみ放送の回数見直したのか、その理由をお聞かせください。</p>

	<p>(2) お悔やみ放送回数の減少と放送音声の変更により、町民の方から直接または間接的にご意見が寄せられていることがあればお聞かせください。</p> <p>(3) 防災行政無線がスタートしてから放送内容などについては、町民の方々のご意見を聞きながら今日の運用になっているかと思いますが、この度のデジタル化に伴う運用方針の変更は、住民サービスの低下に繋がっているものと考えますが、町長はどの様お考えでしょうか。</p>
<p>3 ごみ処理の対応について (町 長)</p>	<p>ごみ処理の方法については、自治体によりその処分方法や対応が分かれています。しかし、少子高齢化や核家族化の進行により、町が指定しているごみ出しに困難な状況が見受けられます。特に、粗大ごみの処分について本町においては、指定ゴミ袋に入らないものは粗大ごみとして処分しなければなりません。大きさに準じて処理券を購入し直接クリーンセンターに搬入できない家庭は、町が指定する事業者へ電話し回収を依頼することになりますが、その際住宅の1階または自宅前に置くことを指定されます。しかしながら、高齢や身体的なご事情により自ら大きな家具を移動することや部屋から運び出すことが難しいという声が次第に目立つようになってきました。そこで、基礎的な行政サービスの一つとして家庭における大型家具などのゴミ出しを支援する体制を整備してはどうかと考えますので町長のお考えをお聞かせください。</p>
<p>4 主要事業施策の政策決定のあり方について (町 長)</p>	<p>現在、令和6年度予算編成作業に職員各位誠意努力されているところと考えますが、新年度予算策定にあたっては、まず政策調整会議で審議され、その後課長会議を経て理事者査定において最終決定されているかと思えます。ついては、次の点について町長のお考えをお聞かせください。</p> <p>(1) 政策調整会議に諮る基準について、どのような事案について、政策調整会議で審議されているのかお聞かせください。</p> <p>(2) 政策調整会議での審議内容を知るためには、町のHPから会議録を見なければなりませんが、事業名称やその事業内容が分かる資料等が公表されていません。他の自治体では、詳しい内容が掲載され住民に対して丁寧な説明を行っているところもありますが、新年度主要施策の町民周知について、町長はどのようにお考えになっているかお聞かせください。</p>

<p>4 10番 井村 悦丈 1 草分防災センターについて (教育長)</p>	<p>草分防災センターは、平成2年に建設され33年が経過して各所に老朽化が表れている。</p> <p>地域の方々からは、町・教育委員会は良く対応してくれていると申しながらも、まだまだ早急な改修箇所が必要と述べている。</p> <p>十勝岳も30～35年周期で活動を活発化する傾向にあり、また、東西に河川もあり近年は想像を絶する異常気象にも見舞われる恐れもあり、避難所として使用されない事に越したことはないが、いつ起こるか分からない災害に備え、特に冬場の万全な備えや対策が必要と考える。</p> <p>仮に避難された方々にとっては、避難所生活は初めての事で困惑し、ストレスになると想像するとき、少しでも不便さをなくすよう、設備に関するものだけでも整備されたい。</p> <p>また、屋外にある公衆トイレについても、上富良野開拓記念館トイレが1つしかないことから、防災センタートイレを利用するよう促す張り紙があり、駐車場には24時間利用可能と表記された立て看板が立てられている。女性や子供が利用に来ることがあるようだが、屋外トイレは、水洗洋式便座でないことから利用を拒む方も多いと伺っている。</p> <p>そこで次の3点について伺いたい。</p> <p>(1) ホール・和室のFF式暖房機が不調で部品供給期間も過ぎていることから修理も出来ず使用出来ない数台の暖房機は入れ替えの必要があるのでは。浴室の灯油ボイラーも不調と伺っているが交換検討されているか。</p> <p>(2) 屋外トイレの洋式化は考えているか。 上富良野開拓記念館からのトイレ利用については、車で移動する方は別として、横断歩道もなく交通安全上、危険であり、駐車場利用者もいることから屋外トイレを新設した方が良いのではないか。</p> <p>(3) 非常電源としてガソリン発電機が備えられているが、昨今の家電品（パソコン含め）は、インバーター内臓の発電機が必要ではないか。</p>
<p>2 学校給食費無償化について (教育長)</p>	<p>昨今ニュースなどで、2023年3月に少子化対策のたたき台で発表された。公立小中学校での給食費の無償化を検討すると国会でも議論されているが、基本給食費は保護者が負担するものであるが、すでに自治体独自で給食費無償化を行っている自治体を耳にするようになっている。</p> <p>財源確保の必要性が生じることからどの様に考えるかだが、子育てにおける経済的負担を考え、住みたい町の選定にとして自治体格差の無いようにされたい。</p> <p>そこで伺いたい。</p> <p>(1) 小中学校給食費の無償化を行わないのか。</p>

<p><b>5</b> <b>9番 島田 政志</b> 1 デジタル化について (町 長)</p>	<p>国はデジタル庁を設立して、国のサービスをデジタル化を進めています。町長はパソコンを積極的に利活用していますが上富良野町におけるデジタル化の推進はどのようになっているのかお伺いします。</p> <p>(1) 町長は、デジタル化の目的についてどのように考えているか伺う。 (2) デジタル化によって、何が改善・改革されるのか伺う。 (3) 上富良野では、どのように進めているか。また今後の推進策について伺う。 (4) 高齢者の分かりやすいIT推進策は。 (5) 会議におけるデジタル化の推進について伺う。</p>
<p>2 社会教育総合センターの体育施設利用の予約方法について (教育長)</p>	<p>多くの町民が、使用する社会教育総合センターですが、利用申し込みについてお伺います。</p> <p>(1) 体育施設の予約は、帳面に記載すると聞いたがその実態はどのようになっているのか。 (2) 電話予約をしても、当日までに帳面に記載しなければいけないのか伺う。 (3) スマートフォン等からの予約について検討していないのか伺う。 (4) デジタル化による事務の効率化について、どのように進めているのか伺う。</p>
<p><b>6</b> <b>5番 金子 益三</b> 1 不足する保育士等の確保に対する対応について (町 長)</p>	<p>上富良野町にある認定こども園では、近年保育士不足が加速している状況にあり、人材確保に非常に苦慮している状況である。</p> <p>このことは言うまでもなく両親が共働きをしている家族の増加に伴い、未満児の保育ニーズが高まる中、保育士のなり手が不足していることに加えて働いても都会での暮らしを望む志向が高まっていることもある。</p> <p>このような中において、近隣の自治体では保育士確保のため、地元で就職していただいた保育士に対して自治体が住宅費の一部を補助するような仕組みなど様々な方策によって確保のための助成を行っている。</p> <p>現状保育士の労働力を確保するために町として補助等の考えがないか伺う。</p>
<p>2 町立病院へ小児科を設置について (町 長)</p>	<p>令和7年に完成予定の新しく建て直される上富良野町立病院に町民も大きな期待と町に病院がある安心の声が多方で聞かれている。</p> <p>現状の高齢社会に対応した、新しい病院の運営にも町も議会も力を合わせて協力を惜しまないところである。</p> <p>コロナ禍においても危険と隣り合わせで猛暑の中でも防護服を纏いながら検査等を続けられた医療スタッフの皆様に心から感謝と敬意を表すところです。このように多くの町民から望まれる町立病院について、子育て世代からぜひ小児科の対応が図れないかといった声が高まっている。</p> <p>小児科については近年の少子化等の影響によって小児科医の減少や、都市部</p>



	<p>の総合病院への集中などの現状にあることは十分に承知をしているが、自衛隊駐屯地を抱える我が町にとっては、子育て中の隊員諸官のご家族にとっても、大きな願いでもある。</p> <p>常勤での対応までとはいかなくても、なんとか週に2~3日程度でも町立病院で小児科医を派遣していただけるように、町も医大への要望等を行うことはできないか伺う。</p>
<p>3 積極的な情報公開への対応について (町長)</p>	<p>上富良野町は、現在情報公開条例を設置して住民から請求された様々な行政資料等について所定の手続きの申請後に情報を公開している。もちろん個人情報保護に関しても適切な対応が図られている現状である。</p> <p>町の情報公開においては、自治基本条例でも第2章の第4条、第3章の第7条、第4章の第11条そして、第2節において情報の共有がしっかりと謳われ、まち、議会、住民それぞれの立場で情報を共有することとなっている。</p> <p>この間、議会は令和元年から推進している開かれた議会のための議会改革において議会のネット配信を議論し、昨年、町に対して一定の方向性を示した。</p> <p>このことについて理事者側はどのように受け止められ、また今後においてどのような対応をされるか、具体的には議場のネット配信を行う考えがあるか伺う。</p>
<p>7 3番 湯川 千悦子 1 道の駅の設置について (町長)</p>	<p>町外に住んでいる多数の方より、上富良野産のお米や野菜、豚肉、牛肉が大変美味しいと会うたび言って頂きます。もちろんスーパーマーケットでも手に入れる事が出来ますが、産地直産の新鮮な農畜産物を手軽に安価で手に入れやすい場所を作り、そのことで上富良野町の遅れた観光を底上げし、経済効果を生み出せる場所になると考えます。</p> <p>道の駅の規定は観光案内の設置、24時間トイレの設置、駐車場を有する・・・などの事がありますが、近年は国道沿いに作らなくても町なかで作るケースも多く、町内に人を呼び込むことにもつながる。</p> <p>町のPRはもちろんしていただいているとは思いますが、今一つ踏み込んだ観光の発展と、経済を生み出す場所について、道の駅が必要と考えるが、町長の考えを伺います。</p>
<p>2 不登校の子供の対応について (教育長)</p>	<p>(1) 少子化が進む上富良野町において、未来を担う全ての児童生徒に対し、教育環境での取りこぼしがないようにどのような方策を執っていくか。国が進めるギガスクールや、BYODなどタブレットを使つての教育はもとより、上富良野町独自の政策はどのようなものがあるか。</p> <p>(2) 現在上富良野町では町内に不登校の児童生徒を様々な角度から支援をしている団体がある。今までもこのような団体に対して、町も協力支援を行っているが、今後においてこのような団体との連携について町の考えを伺う。</p>

<p>8 4番 米澤 義英 1 土地利用規制法について (町 長)</p>	<p>土地利用法では、自衛隊の施設、駐屯地や弾薬庫など重要施設の周囲1kmが注意指定区域に指定され、注意区域では、土地の利用状況を調査し、施設の機能を阻害する行為が判明すると中止勧告や命令などの規制を行い従わない場合には懲役2年以下か罰金200万円以下を科せられるとされている。この法律は、安全保障のためという名目で、誰でもが監視や規制の対象となる法律で、容認できるものではありません。</p> <p>次の点について伺う。</p> <p>(1) 土地利用法の内容。</p> <p>(2) 区域の指定において行政や団体、住民の意見聴取など意見交換する場があったのか。さらに、町は指定区域に対しどのような見解を述べたのか。</p>
<p>2 介護保険について (町 長)</p>	<p>(1) 誰も安心して介護が受けられる制度でしたが、現実には利用者と家族に重い負担を求める結果となっている。例えば、利用者負担では、原則1割が所得に応じ2〜3割へ、要支援の軽度を地域支援に、特養では食事、部屋代を軽減する補足給付制度がありますが収入や資産要件が見直がされるなど利用者と家族からこれ以上の負担増はもう耐えられないとの声があるが、極めて深刻な現状にあると考えるが町長の答弁を求める。</p> <p>(2) 来年度からは、ケアプランの有料化、利用料の2割負担、3割負担の対象者拡大、要介護1.2を保険給付から外し、総合事業へ移行しようとしている。年金はほとんど上がらないのに物価だけが上がっているが、町長はこれ以上の負担を利用者や家族に求めるべきではないと国に要請すべきと考えるが答弁を求める。</p> <p>(3) 第9期の介護保険事業、高齢者保健福祉計画の策定が行われていると考えるが、介護保険料月額ほどのくらいになるのか、また、物価高騰や利用者負担などを考えれば一般会計からの繰り入れや介護保険基金を活用し据え置きにすべきと考えるが答弁を求める。</p>
<p>3 農業振興について (町 長)</p>	<p>今、農業は高齢化、担い手や労働力不足で現状の農業が継続できるか深刻な状況にあります。労働力不足で家族労働では限界がある。農業者は派遣やパート労働者を雇用している現状にあるが、人件費の負担が大変になってきている。町の基幹産業である農業を守るためにも、人件費の補助や労働力の確保対策が必要と考えるが町長の答弁を求める。</p>
<p>4 子育て支援について (町 長)</p>	<p>町では子育て支援策として、中学校までの医療費の無料化、産前産後の保健師による家庭訪問などがされている。また、乳幼児のごみ袋の支給もされているが、他の自治体では、出産祝い金、保育料・副食給食費の無料化、乳幼児用のおむつ衣服などの支援をおこなってなっているところもあるが、今後の対応について答弁を求める。</p>
<p>5 教育行政について (教育長)</p>	<p>(1) 町では学校給食を提供しているが、食育教育として親子との触れ合いを大切にとの理由で弁当の日を設けているが、見直しも求める声もあるが現状と今後の対応について伺う。</p> <p>(2) 給食費の徴収は、教員の働き方改革のからも行政が行うことが好ましいとなっているが、現状と今後の対応について伺う。</p>

<p>9 2番 荒生 博一 1 学校給食について (町 長) (教育長)</p>	<p>学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達及び、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たしている。</p> <p>昨今の物価高騰によって家計が圧迫される中、家庭の経済状況にかかわらず全ての子どもたちに食の安全、安心や栄養バランスの取れた良質な学校給食を提供することは、心身の健やかな成長に欠かせないものであり、現在、国においても少子化対策の実現に向け、学校給食の実態調査を速やかに行うものとしている。学校給食法第11条第2項では、学校給食費は保護者の負担とされているが、子育て費用の負担感が増している昨今においては、保護者への負担軽減が求められている。そこで以下3点について町長に伺う。</p> <p>(1) 当町においても小中学校の学校給食費の無償化を検討する時期と考えるが町長の見解は。</p> <p>(2) 本町の財政状況も年々厳しさを増していることから、学校給食の無償化を全ての学校で実現するためには、国や道へ財政支援についての働きかけが必要と考えるが町長の見解は。</p> <p>(3) 本町の小中学校では、平成19年10月からこれまでの間、「お弁当の日」を年6～7回設定し、食への関心を高めることや、作ってくれている方へ感謝の心を育む機会となるよう実施してきている。「お弁当の日」を設定し約16年、感謝の心は十分育まれたと考えるが、教育長の見解を伺う。</p>
<p>2 町ホームページの統計について (町 長)</p>	<p>近年、産業構造や雇用形態の変化に伴い、社会・経済も急速に変化しているが、こうした変化の中で、地方自治体が適切な施策を立案・実施し、また企業や個人が的確に意思決定を行っていくためには、その現状を把握することはとても重要なことである。統計調査の結果は、地方交付税の算定資料や都市計画、防災計画、商工業の振興など、様々な行政施策を立案する際の基礎資料となるものであり、また、教育や学術研究への利用や、民間企業の経営方針の決定資料など様々な分野で幅広く利用されており、社会の発展を支える情報基盤として重要な役割を果たしている。先日、知人からの依頼で当町の人口動態について聞かれ、ホームページを確認したところ、見出しには令和5年8月現在と書かれているにもかかわらず、人口動態はおろか、他の統計においてもおよそ85%近くのデータが更新されていなかった。こうした実態を踏まえ、町長に以下3点について伺う。</p> <p>(1) 町長は、統計の重要性についてどのようにお考えか伺う。</p> <p>(2) データが更新されていない理由を伺う。また、各統計はそれぞれの所管が担当していると思うが、統計データはどのような工程を経てホームページ上にアップされるのか伺う。</p> <p>(3) 更新されていない現状を町長はどのように受け止め、また、これまでもホームページについては情報の更新について言及してきたが、現在においても他の会議録なども更新されていない部分も見受けられる。人材不足などにより管理体制に問題が生じていないのかも合わせて伺う。</p>

<p><b>10</b> <b>8番 中瀬 実</b> 1 物価高に対する生活弱者への支援対策は (町 長)</p>	<p>生活必需品の値上げに歯止めがかかりません。食料品をはじめ電気、ガス、石油、ガソリン代等々全てが値上がり、価格が高止まりしております。日本の食生活の基本は、海外への依存が高く、今、円が150円台が続く中、円安の中輸入される生活物資は全て値上がりし、生活費のやりくりも限界に近い状況であります。特にこれから厳しい冬を迎え大変な状況が想定されますが、そこで伺いたいのは、町としてこの物価高に対する生活弱者へ支援対策はどのように考えているか伺います。</p>
<p>2 第9次農業振興計画の重点施策について (町 長)</p>	<p>上富良野町農業振興計画は、昭和58年12月、第1次の上富良野町農業振興計画を策定し、5年毎に計画を見直し、目まぐるしく変化する社会情勢や農業情勢を計画に反映させながら農業振興に努めてきたと認識しております。</p> <p>現在、8次の上富良野町農業振興計画が令和5年で終了し、第9次の上富良野町農業振興計画素案が町長から10月に上富良野町農業振興審議会へ諮問され令和6年1月に答申を受け、令和6年2月には第9次上富良野町農業振興計画が策定されることになっておりますが、そこで伺いたいのは持続可能な上富良野農業振興のために町長が特に重要施策として上富良野町農業振興審議会へ諮問した施策について伺います。</p> <p>(1) 後継者対策について</p> <p>(2) 人手不足対策について</p>